東　京　国　税　局　長　賞

水は当たり前じゃない

町田市立町田第三中学校　３年　坂田　大樹

私は今、蛇口をひねればきれいな水が出る環境で暮らしている。飲める水が家に通っているのは当たり前で水が無くて困った経験はない。父は３・11 の震災の時に放射能汚染を心配し、子供たちの飲料水を買い求めるため探し歩いた苦労話や計画停電のため水を汲み置きしていた話をするが、自分は小さくて覚えていない。先日のニュースでは水不足だから節水しよう、でも熱中症予防には水分摂取というフレーズが流れていた。日頃から無駄使いしないようには気を付けているが、連日猛暑が続くので水がないと困ることになる。

そこで、世界の水事情について調べたところ、アフリカの小さな国マリに井戸水をくみ上げるポンプを設置したという記事を見つけた。その地域では、不衛生な水や雨水を生活水として使うことなどの理由から、15 才前に５人に１人が亡くなるという。そのため、きれいな水を求めて幼い子供の頃から膨大な時間と労力を費やし暮らしている。過酷な住民たちの暮らしを支えていくため、このプロジェクトに賛同してくれる人から寄付を募ってポンプ設置に成功したとのこと。記事に掲載されている人々の笑顔はとても輝いていて印象的だった。

日本とアフリカは何が違うのか考えてみることにした。日本では美味しい水を求めてお金を支払う人はいると思うが、きれいな水を求めて舗装されていない道を一日中歩く人はいないだろう。住民が使う水道を引くために他国に支援金を募る必要はなく国が整備をしてくれている。生活用水は清潔で安全な飲み物であることが前提なため、飲水することで病気のリスクが生じることはない。小さな子供が大人の手伝いをすることはあっても、長時間水汲み労働に時間を取られることはなく、幼稚園や学校に通っているのが普通である。

私たちがこのように恵まれた日本社会で生活できている背景には、税金というシステムがあるからといえる。税金には年金、医療、介護、子育てなどの社会保障・福祉、水道、道路などの社会資本整備、教育、警察、防衛といった公的サービスを運営するための費用を賄うものと学んだ。大人たちは、一生懸命働いても税金がかかって困る、何でも税金がかかると愚痴をこぼすので、税金にはよいイメージはなかったが、調べていくうちに生活していくうえで、なくてはならない存在だと感じることができた。また、アフリカのように特定の人が費用負担するのではなく、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくため、この費用を広く公平に分かち合うことが大切である。

私はまだ、将来どんな仕事に就きたいか決まっていないが、人の役に立てるような仕事に就きたいと考えている。そのため今できることは、毎日学校へ通い勉強をして夢に一歩でも近づけるよう努力していきたい。また、日本を支える一員になれるよう頑張りたい。